



おいで、アラスカ!

アンナ・ウォルツ／作
野坂悦子／訳

発行：フレーベル館
発行年月：2020年3月
定価：1,400円(税別)
対象年齢：小学校高学年から
サイズ：20×14cm
頁数：260ページ

オランダの児童文学賞「銀の石筆賞」を受賞し、野坂悦子さんが翻訳した物語。てんかん啓発書ではありません。12～13歳の主人公たち(少女パーケルと少年スフェン)の日常の様子を、二人の思いを交互に覗く形で物語が進みます。Keywordは強盗事件とてんかん。そして、二人をつなぐのがアラスカ。日本には居ない、てんかんのある人を支える介助犬。中学生のたわいもない行動、子どもらしい悩みや不安が募る中、アラスカを通じて芽生える相手を思いやるこころ。そして奇跡とも言えるクラスの行動…。物語を通じて、てんかんがあることへの不安、周囲の戸惑いや心ない

行為、そしてオランダと日本の制度の違いを見てください。二人がどうなるかハラハラしながら、てんかんについても考えさせられます。野坂さんのメッセージです。「立場も性格も違うパーケルとスフェンに共通するのは、次の瞬間、なにが起きるかわからない未来に、強い不安を感じていること。自分自身であるとはどういうことか、人から違う目で見られることをどう受け止めるか、生きることへの不安、そしてその不安をも乗り越える勇気…。(抜粋)」。二人のこころの機微を感じながら、とても感動する秀逸な物語です。

(紹介・田所 裕二)

※本書は、当協会でも取り扱います。ホームページの準備が整うまでは、FAXでご注文ください。